



2012年8月5日

# いま起きつつあること…

あなたもわたしも、ただの「番号」になる——恐ろしい共通背番号制

「共通背番号制」  
「マイナンバー法」  
が施行されます！

今国会では「消費税増税」を政府が通すため躍起になっていますが、この騒ぎに隠れて、「共通背番号制」＝「マイナンバー法」がすでに閣議決定され、消費税増税とセットになって成立させようとしていることを、ご存知でしょうか。

この法案については、ほとんど報道されないため周知度が低く、「知らない」と答えた人々が80%を超えるといいます。政府はこの「背番号制」

によって、社会保障を手厚くすると謳っていましたが、現実にはまったく逆であり、税の確実な捕捉と社会保障の支出を抑えるために導入します。そして国は個人情報を手に入れる権利を獲得し、私たちは国によって個人情報を管理され、把握されるのです。

すべての人に番号  
がつけられ、個人  
情報が集められる

「共通背番号制」は、日本に住む外国人を含めたすべての人々に番号がつけられ、その個人情報を国が管理するというシステムです。ここにはいくつもの大きな問題点があります。

たとえばインターネットを利用して、「アマゾン」で本を購入すれば、「あなたはこのような本に興味がある」と想定され、何度か案内がきま

す。購買履歴を利用したネット商法は、いまや常識的に行なわれていきます。購入履歴の蓄積により、効率よく新刊本などを勧めることができるので、個人の趣味や嗜好といった個人情報は、企業にとって大きな利益につながります。

国はこの法律を得て、私たちの預金などの資産、病歴などの医療情報、学歴、職歴、行動すべての個人情報を収集蓄積していく「権利」を得ます。個人情報は、官・民間を問わず多くの機関で共有され利用されます。

個人情報が自分以外のものに把握され、都合よく使われ、国家によって管理されるようになるのが、共通背番号制です。この法の恐ろしさを多くの人々は知らされていません。私たちは今後、いろいろな場所で共通背番号（マイナンバー）の提示を求められるようになります。私たちの個人情報、社会の至る所へば

ら撒かれます。そうなるにどのよう利用されるのか自分で把握・追跡することは不可能です。

個人情報の漏えいの危険性が高まり、  
犯罪は増加

また、集められた個人情報は、「病歴」「預金残高」などのセンシティブかつ、重要な情報であっても、官民で使用されるため、情報漏えいの危険性が飛躍的に高くなります。いくら罰則を設けても、いったん流出した個人情報は、取り戻すことはできません。個人情報を利用した犯罪が増加することは確実視されています。

アメリカなどすでに取り入れている国では、個人情報悪用した「なりすまし」などの犯罪が後を絶たないといえます。アメリカでは、2006年～2008年ベースで、なりすまし犯罪の犠牲者が1



2012年8月5日

# いま起きつつあること…

億170万件に上っているということが明らかにされ、大きな問題になっています。共通背番号システムから流出した個人データによって、例えば預金から不正に支出されたり、なりすましにより、借金をされたり、保険証を他人が勝手に使ったりすることが日常的に起こっています。

共通背番号制は、住基ネットシステムを使って行なわれます。国立のぞみ教会会員の関口博前国立市長は、このような社会の到来を危険視し、予見して住基ネットの切断を8年間続けていました(国立市は市長交代により2012年3月接続)。

## 神によって創造された人間の尊厳が侵される番号制

一人ひとりに番号をつけて、国家が管理するという時代が目の前に来ている。このことは、私たちにあって、また

未来の世代にとって、どのような世の中が到来するのか、私たちキリスト者は「目を覚まして」真剣に注意深く考えなければならぬと思います。あらゆる個人情報に蓄積されることによって「つくられた人格」——たとえば病歴や職歴、預金残高、嗜好、結婚歴、行動歴によって判断される人間——が私たちそのものを現わすのではないのにもかわらず、その「人格」は一人歩きをします。個人情報に国家や企業によって都合よく利用されるとき、わたしたちの存在そのものが脅かされる状況が起きてくると思います。

しかし、私たちは過去も未来も神によって守られ、日々新しく創造される者です。国家に属するものではなく、神に属するものであり、神によって自由を保障された者です。

しかし、「個人情報」を国家に渡してしまう」ということ

は、人間そのものを情報操作によって「コントロール」することができるようになるということであり、人間の存在、尊厳に深くかかわる問題であると思います。

個人情報利用の仕方によって、弱者や少数者を容易に切り捨てることができるようになります。

共通背番号制の施行によって、個人情報、私たちの手の届かないところで管理されます。誤った情報でも、病歴など自分にとって都合のよくない情報でも、自分で訂正したり削除することはできません。

人間が番号をつけられた「モノ」として扱われる世の中の到来を、許してはいけなさと考えます。共通背番号制は、神が創造された人間に踏み込んでいく行為であり「禁断の果実」であると考えます。(神学・社会委員会 関口美樹)

◆平和講演会のお知らせ  
「あなたもわたしも、ただの「番号」になる——恐ろしい共通背番号制について考える」  
9月29日(土) 午後1時  
～3時30分  
場所 高座教会  
講師 白石孝氏(『共通番号制なんていらぬ!』著者)／関口博氏(国立のぞみ教会会員・前国立市長)